

中学生の将来の自己喫煙予想と家庭環境および健康行動との関連

ワカバヤシ
若林チヒロ*

目的 平均寿命に差のある2市の中学生において、将来の自己の喫煙予想を家族の喫煙習慣や嫌煙経験、健康行動、ライフスタイルとの関連から検討すること。

方法 2005年1月、青森県A市、長野県B市のすべての公立中学2年生を対象に、無記名自記式の質問紙調査票を授業中に配布、回収した。回収票は各399票、447票、欠席者を除き回収率100%。B市の平均寿命はA市よりも男性で4.2歳、女性で2.9歳長い。質問項目は、将来の自己喫煙予想、嫌煙経験、家族および母親の喫煙習慣、運動習慣、平均睡眠時間、食生活行動。将来の自己喫煙予想と家族の喫煙習慣、健康行動との関連を性別、市別に分析した。統計的検討には χ^2 検定を用いた。

結果 男子は、将来の自己喫煙予想率(A市18.7%、B市10.3%)、家族の喫煙習慣率(A市71.2%、B市59.9%)、母親の喫煙習慣率(A市31.6%、B市12.0%)のいずれもA市の方が高率で、嫌煙経験率(A市72.7%、B市84.7%)で低率であった。女子は、家族の喫煙習慣率(A市75.5%、B市59.6%)でA市が高率であった以外に地域差はなかった。2市ともに女子では母親に喫煙習慣がある人は将来の自己喫煙予想率が高かった。B市の女子以外では嫌煙経験がある人の方が将来の自己喫煙予想率は低かった。健康行動との関連は、朝食の欠食状況別には統計的には有意な傾向がなかったが、コンビニエンスストアの食品とインスタントラーメンは、B市男子で利用頻度の高い中学生の方が将来の自己喫煙予想率が高かった。平均睡眠時間は、B市女子で6時間未満の中学生の方が将来の自己喫煙予想率が高かった。

結論 平均寿命に差のある2市を比べたところ、男子では中学生の段階ですでに将来の自己喫煙予想率に開きがあり、平均寿命の短いA市の方が高率であった。家族の喫煙習慣率もA市の方が高く、嫌煙経験や母親の喫煙習慣と中学生の将来の自己喫煙予想との関連はいずれの市においても共通した傾向がみられた。中学生の喫煙対策は、本人の喫煙行動のみではなく、家庭環境や地域の社会背景をも考慮して検討することが有用である。

Key words : 喫煙, 中学生, 健康行動, 家庭環境, 平均寿命, 健康教育

1 はじめに

喫煙が健康に悪いことは広く知られ、日本には未成年者の喫煙禁止法があるにもかかわらず、中学生の多くが喫煙していることが報告されている^{1,2)}。中高生の喫煙率は学年が上がるごとに高くなるといわれ¹⁾、より低年齢の中学生段階で喫煙を習慣化しないことが大切である。喫煙する中学生の特徴には、家庭や地域でたばこを入手しやすい環境があることが指摘されており^{1,3)}、中学

生の喫煙には家庭環境や地域環境が影響を及ぼしている可能性がある。

また、中学生の喫煙が家庭や地域の環境に影響を受けているとすると、喫煙行動に限らず他の健康行動やライフスタイルについても、喫煙する中学生には喫煙しない中学生とは異なる特徴があると考えられる。

そこで、本研究では、喫煙する中学生の特徴を家庭環境や、健康行動、ライフスタイルの点から検討するために、青森県A市、長野県B市の中学2年生を対象に質問紙調査を行った。中学生をめぐる地域環境やライフスタイルについての理解を深めることで、より有効な喫煙対策を検討できると考えた。

* 埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科
連絡先：〒343-8540 埼玉県越谷市三宮820
埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科
若林チヒロ

対象とした2市は、いずれも県庁所在地に隣接する人口4万人前後の市である。しかし2000年の市区町村別生命表⁴⁾によると、その平均寿命には地域差が大きい。青森県A市は、47都道府県のうち男女共に平均寿命が最も短い青森県内でもとくに短命な地域であり、長野県B市は、長寿の長野県全体の平均値とほぼ近い値の地域である。青森県A市の平均寿命は男性74.7歳、女性82.6歳、長野県B市は男性78.9歳、女性85.5歳あり、男性で4.2歳、女性で2.9歳の開きがある。本調査研究では、これら平均寿命の異なる2市の結果を比較することで、喫煙を中心とした健康行動やライフスタイルには中学生の段階ですでに地域差があるのか、いずれの市にも一般的な傾向としてみられる特徴があるのかを検討した。

II 方法

1. 対象と調査方法

青森県A市、長野県B市のすべての公立中学に通う2年生を対象に、無記名自記式の質問紙調査票を授業中に配布し回収した。対象校は、青森県A市5校、長野県B市3校で、調査実施日の欠席者を除く生徒全員から回答を得た(回収率100%)。回収票はそれぞれ399票、447票。調査は2005年1月に実施した。

2. 調査項目

1) 将来の自己喫煙予想:「あなたは大人になってからたばこを吸うと思いますか」に「はい/いいえ」として、自分が成人した後の喫煙予想の有無を尋ねた。

2) 嫌煙経験:「人が吸っているたばこのけむりや火を嫌だと感じたことがありますか」に「はい/いいえ」で尋ねた。

3) 家族および母親の喫煙習慣の有無:家族の喫煙習慣は、「あなたの家族でたばこを吸う習慣がある人がいますか」に「はい/いいえ」で尋ねた。母親の喫煙習慣は、「たばこを吸う」に該当の有無を回答してもらった。

4) 健康行動:朝食の欠食状況は、「①ほとんど毎日食べる」、「②1週間に1回位食べないことがある」、「③1週間に2~3回位食べないことがある」、「④食べない時の方が多い」の4択で尋ね、②から④を「食べない日あり」と定義した。運動習慣は、「①よくしている」、「②ふつう」、「③あ

まりしていない」と尋ね、②と③を合計して用いた。平均睡眠時間は、「①6時間未満」、「②6時間以上7時間未満」、「③7時間以上8時間未満」、「④8時間以上」と尋ね、②から④を「6時間以上」と定義した。

5) 食行動:「コンビニエンスストアのおにぎり、菓子パン、弁当等」、「インスタントラーメン・カップ麺」、「ファーストフード店のハンバーガー、どんぶり物、カレー等」、「スナック菓子」の4項目について、利用する頻度を「①ほとんど毎日」、「②1週間に1回以上」、「③1か月に1回以上」、「④ほとんどとらない」の4択で尋ね、①および②と、③および④とで2つに分類した。

3. 分析方法

喫煙に対する意識や行動は性差が大きいと考えられるため性別に、さらに2市の特徴を比較するため市別に分析を行った。統計的な検討には χ^2 検定を用いた。

4. 倫理的検討

本調査の実施にあたっては、対象市の関係機関と意見交換を行って調査内容、項目、方法、手順について不適切なものを修正した。また、対象中学生のプライバシー保護のプロセスについて検討し、回答したくない項目には無回答でよいこと、匿名調査であり個人を特定することはないことを対象者に確認し実施した。本研究については、埼玉県立大学倫理委員会の審査(NO. 18029)に付され、承認された。

III 結果

1. 将来の自己喫煙予想、嫌煙経験および家族の喫煙習慣(表1)

男子では、将来の自己喫煙予想ありは、青森県A市で18.7%、長野県B市で10.3%、家族の喫煙習慣ありが青森県A市で71.2%、長野県B市で59.9%、母親の喫煙習慣ありが青森県A市で31.6%、長野県B市で12.0%と、いずれの項目でも青森県A市は長野県B市よりも高率であった。嫌煙経験をもつ人は両市ともに高率ではあったが、長野県B市は84.7%で青森県A市の72.7%よりも高かった。女子では、家族の喫煙習慣のみ青森県A市の方が高率であった。母親の喫煙習慣ありは、有意ではないが、青森県A市の方が高い傾向があった。

2. 嫌煙経験および家族の喫煙習慣別にみた将来の自己喫煙予想 (表2)

嫌煙経験の有無別に将来の自己喫煙予想率をみると、男子では2市いずれの市でも、女子では青森県A市で、嫌煙経験ありとした人の方が将来の自己喫煙予想率が低かった。

家族の喫煙習慣の有無別には、統計的には有意ではなかったが、2市の男女で家族の喫煙習慣がある人の方が将来の喫煙予想率が高い傾向がみら

れた。

母親の喫煙習慣の有無別には、男子では有意な傾向はみられなかったが、女子では2市ともに母親に喫煙習慣がある人の方が将来の自己喫煙予想率が高率であった。

3. 健康行動別にみた将来の自己喫煙予想 (表3)

朝食の欠食状況別に将来の自己喫煙予想率をみると、長野県B市の男子では、朝食を「食べな

表1 性別地域別, 将来の自己喫煙予想と嫌煙経験, 家族および母親の喫煙習慣の有無
単位: 人, () 内は%

	将来喫煙と思う				嫌煙経験				喫煙習慣のある家族				母親の喫煙習慣			
	n	はい	いいえ	P値	n	あり	なし	P値	n	いる	いない	P値	n	あり	なし	P値
男性																
青森県A市	198	37 (18.7)	161 (81.3)	0.018	198	144 (72.7)	54 (27.3)	0.003	198	141 (71.2)	57 (28.8)	0.018	196	62 (31.6)	134 (68.4)	0.000
長野県B市	242	25 (10.3)	217 (89.7)		242	205 (84.7)	37 (15.3)		242	145 (59.9)	97 (40.1)		241	29 (12.0)	212 (88.0)	
女性																
青森県A市	196	13 (6.6)	183 (93.4)	0.631	196	167 (85.2)	29 (14.8)	0.241	196	148 (75.5)	48 (24.5)	0.001	195	42 (21.5)	153 (78.5)	0.150
長野県B市	200	10 (5.0)	190 (95.0)		202	181 (89.6)	21 (10.4)		203	121 (59.6)	82 (40.4)		201	31 (15.4)	170 (84.6)	

注1) 無回答は除いて集計した。

注2) 検定は χ^2 検定。

表2 性別地域別, 嫌煙経験, 家族および母親の喫煙習慣の有無別, 将来の自己喫煙予想者の割合
単位: 人, () 内は%

	青森県A市			長野県B市		
	はい	いいえ	P値	はい	いいえ	P値
嫌煙経験						
男 あり	15(10.4)	129(89.6)	0.000	14(6.9)	190(93.1)	0.000
男 なし	22(40.7)	32(59.3)		11(29.7)	26(70.3)	
女 あり	8(4.8)	159(95.2)	0.037	8(4.5)	170(95.5)	0.639
女 なし	5(17.2)	24(82.8)		2(9.5)	19(90.5)	
喫煙習慣のある家族						
男 いる	31(22.0)	110(78.0)	0.095	18(12.5)	126(87.5)	0.166
男 いない	6(10.5)	51(89.5)		6(6.2)	91(93.8)	
女 いる	12(8.1)	136(91.9)	0.261	9(7.6)	109(92.4)	0.086
女 いない	1(2.1)	47(97.9)		1(1.2)	81(98.8)	
母親の喫煙習慣						
男 あり	13(21.0)	49(79.0)	0.659	5(17.2)	24(82.8)	0.295
男 なし	23(17.2)	111(82.8)		19(9.0)	191(91.0)	
女 あり	7(16.7)	35(83.3)	0.010	4(12.9)	27(87.1)	0.050
女 なし	6(3.9)	147(96.1)		5(3.0)	162(97.0)	

注) 検定は χ^2 検定。

表3 性別地域別，健康行動別，将来の自己喫煙予想者の割合

単位：人，（ ）内は%

	青森県 A 市			長野県 B 市		
	はい	いいえ	P 値	はい	いいえ	P 値
朝食の欠食						
男 毎日食べる	26(17.8)	120(82.2)	0.657	17(8.8)	177(91.2)	0.104
食べない日あり	11(22.0)	39(78.0)		8(18.6)	35(81.4)	
女 毎日食べる	12(7.5)	147(92.5)	0.528	7(4.8)	140(95.2)	1.000
食べない日あり	1(2.9)	34(97.1)		3(5.9)	48(94.1)	
平均睡眠時間						
男 6 時間未満	8(26.7)	22(73.3)	0.336	6(20.0)	24(80.0)	0.126
6 時間以上	29(17.3)	139(82.7)		19(9.0)	192(91.0)	
女 6 時間未満	3(6.7)	42(93.3)	1.000	7(15.6)	38(84.4)	0.001
6 時間以上	10(6.6)	141(93.4)		3(1.9)	151(98.1)	
運動やスポーツ						
男 よくしている	25(23.6)	81(76.4)	0.086	17(11.4)	132(88.6)	0.631
普通・あまりしていない	12(13.0)	80(87.0)		8(8.6)	85(91.4)	
女 よくしている	5(6.7)	70(93.3)	1.000	5(6.1)	77(93.9)	0.792
普通・あまりしていない	8(6.6)	113(93.4)		5(4.2)	113(95.8)	

注) 検定は χ^2 検定。

い日がある」人は、「毎日食べる」人よりも将来の自己喫煙予想率が高い傾向があったが、統計的には有意ではなかった。女子には顕著な差はみられなかった。

平均睡眠時間との関係を見ると、女子は、長野県 B 市では、「6 時間未満」の人の方が「6 時間以上」の人よりも将来の自己喫煙予想率が高かったが、青森県 A 市ではまったく差がなかった。男子では両市ともに、有意ではなかったが、「6 時間未満」の人の方が「6 時間以上」の人よりも高かった。

運動やスポーツの実施状況別にみると、統計的には有意ではなかったが、青森県 A 市の男子では「よくしている」とした人の方が「普通・あまりしていない」とした人よりも将来の自己喫煙予想率が高かった。女子や長野県 B 市の男子では明らかな傾向はなかった。

4. 食行動別にみた将来の自己喫煙予想 (表 4)

「コンビニエンスストアのおにぎり、菓子パン、弁当等」を「ほとんど毎日/1 週間に 1 回以上」の頻度で利用している人の将来の自己喫煙予想率は、「月 1 回以上/ほとんど利用しない」とし

た人より長野県 B 市の男子で高率であった。青森県 A 市の男子では統計的に有意ではなかったが、同様の傾向がみられた。

「ファーストフード」の利用については、男女ともに有意な傾向はなかったが、男子では「ほとんど毎日/1 週間に 1 回以上」の頻度で利用している人の将来の自己喫煙予想率は、「月 1 回以上/ほとんど利用しない」とした人よりも高い傾向がみられた。

「スナック菓子」の利用については、統計的には有意ではなかったが、女子で、「ほとんど毎日/1 週間に 1 回以上」の頻度で利用している人の将来の自己喫煙予想率は、「月 1 回以上/ほとんど利用しない」とした人よりも高い傾向がみられた。男子では明らかな傾向がなかった。

「インスタントラーメン・カップ麺」の利用については、長野県 B 市の男子で「ほとんど毎日/1 週間に 1 回以上」利用している人では、「月 1 回以上/ほとんど利用しない」とした人よりも高率であった。女子や青森県 A 市の男子では有意な傾向はなかった。

表4 性別地域別, 食行動別, 将来の自己喫煙予想者の割合

単位:人, ()内は%

	青森県 A 市			長野県 B 市		
	はい	いいえ	P 値	はい	いいえ	P 値
コンビニエンスストアのおにぎり, 菓子パン, 弁当等の利用頻度						
男 毎日/週 1 回以上	22(24.2)	69(75.8)	0.071	14(17.3)	67(82.7)	0.022
月 1 回以上/ほとんどない	13(13.0)	87(87.0)		11(6.8)	150(93.2)	
女 毎日/週 1 回以上	7(10.1)	62(89.9)	0.248	5(6.2)	76(93.8)	0.777
月 1 回以上 or ほとんどない	6(4.7)	121(95.3)		5(4.2)	113(95.8)	
ファーストフードの利用頻度						
男 毎日/週 1 回以上	14(24.6)	43(75.4)	0.180	8(16.0)	42(84.0)	0.233
月 1 回以上/ほとんどない	21(15.2)	117(84.8)		17(8.9)	173(91.1)	
女 毎日/週 1 回以上	3(7.9)	35(92.1)	1.000	3(7.7)	36(92.3)	0.652
月 1 回以上/ほとんどない	10(6.4)	147(93.6)		7(4.3)	154(95.7)	
スナック菓子の利用頻度						
男 毎日/週 1 回以上	24(17.0)	117(83.0)	0.736	19(11.6)	145(88.4)	0.481
月 1 回以上/ほとんどない	11(20.4)	43(79.6)		6(7.7)	72(92.3)	
女 毎日/週 1 回以上	12(8.4)	131(91.6)	0.202	10(7.0)	133(93.0)	0.091
月 1 回以上/ほとんどない	1(1.9)	51(98.1)		0(0.0)	57(100.0)	
インスタントラーメンの利用頻度						
男 毎日/週 1 回以上	21(15.6)	114(84.4)	0.246	16(17.8)	74(82.2)	0.007
月 1 回以上/ほとんどない	14(23.7)	45(76.3)		9(5.9)	143(94.1)	
女 毎日/週 1 回以上	8(10.3)	70(89.7)	0.178	5(7.6)	61(92.4)	0.415
月 1 回以上/ほとんどない	5(4.3)	112(95.7)		5(3.8)	128(96.2)	

注) 検定は χ^2 検定。

IV 考 察

本調査では現在の喫煙の有無を直接尋ねるのではなく、大人になってからたばこを吸うと思うか否かという自分の将来の喫煙予想について尋ねた。藤田の研究²⁾では、中学生で現在喫煙している人のうち9割が自分は成人後も喫煙すると予想しているものの、喫煙経験のない中学生でも約3分の1が自分は将来喫煙すると予想しており、必ずしも将来の自己喫煙予想率と現在の喫煙率は一致するものではない。しかし、中学生の将来の自己喫煙予想率と、喫煙経験率や現在の喫煙率との関連は強く、本調査のように喫煙率を直接質問できない場合にその特徴を検討するにはこの質問は有効な方法であると考えられる。また本調査の場合にはプライバシーは保護される旨伝えて調査実施しているものの学校で実施しており、実際の将

来の自己喫煙予想率よりは低めの結果である可能性も考慮しておかなければいけない。

家族が喫煙習慣をもつ中学生の割合は、男女とも、長野県 B 市では60%程度であるが、青森県 A 市では70%を超えており、青森県 A 市には喫煙者のいる家庭環境で生活している中学生が多かった。2 市の中学生の将来の自己喫煙予想率は、女子には差がなかったものの、男子では青森県 A 市が18.7%で長野県 B 市の10.3%に比べて高く、家族の喫煙率の違いが中学生の段階ですでに将来の自己喫煙予想率に地域差をもたらした可能性もあると考えられた。

未成年の喫煙者は家にあるたばこを吸っているという報告^{1,5)}もあり、未成年者の喫煙習慣に関連する要因には家族の影響があることが指摘されている⁶⁾。本調査結果では、統計的には有意ではないが家族に喫煙習慣がある中学生の方が将来自

分も喫煙すると予想している割合が高い傾向が確認された。女子の場合には2市いずれの地域でも母親の喫煙習慣との関連が有意に認められ、女子の場合母親の喫煙習慣が子の将来の喫煙行動に影響を及ぼす可能性が示唆された。小川の調査結果⁵⁾でも、男子よりも女子の方が身近な人の喫煙の影響を受けやすいことが報告されており、本調査結果も同様な結果を示していた。

これら2市において2004年に20歳以上69歳以下の女性住民各一千名を対象に実施した調査⁷⁾では、青森県A市の喫煙率は21.1%で長野県B市の11.7%に比べて高いという結果がでており、家庭だけでなく地域全体においても、少なくとも女性の喫煙率は、青森県A市が長野県B市よりも高いことがわかっている。このように2市の女性の喫煙率には地域差が大きく、このことがそれぞれの地域で中学生の将来の自己喫煙予想率にも影響を及ぼしている可能性があるのではないかと考えられた。中学生と生活を共にする親や家族、地域住民は、成人の喫煙は、受動喫煙という直接的な形だけでなく、中学生の将来の喫煙行動を促進するという間接的な形でも、中学生の健康に影響を及ぼしていることを認識する必要があると考えられた。

男子は青森県A市では長野県B市に比べて嫌煙経験率が低く、両市とも嫌煙経験がないとした中学生では将来の自己喫煙予想率が高かった。初めて喫煙したときの感想が気持ちよかった、おいしかった、気分がすっきりしたなどの快樂的な受け止め方をした中学生は喫煙の習慣性が高いという報告もあり²⁾、たばこに対する受け止め方や価値観が将来の喫煙行動に影響を及ぼすことも考えられる。喫煙に対して自分の価値観を確立できるような健康教育や対策も大切ではないかと考えられた。

2市の平均寿命の差と中学生の喫煙行動とを直接的に関連付けることはできないものの、中学生の段階ですでに将来の自己喫煙予想率に差を生じさせるような文化や家庭環境、地域環境であることを住民自身が認知することは大切である。中学生の喫煙対策には、個人の喫煙行動だけでなく喫煙に関連する地域環境への理解が重要と考えられた。

現在、国は健康づくり運動として「健康日本21」

を掲げて様々な喫煙対策をたてており、市区町村単位でも地域の特性を考慮した独自の「健康日本21」地方計画をつくっている⁸⁾。喫煙対策も多くの市区町村で取り組まれており、喫煙と疾患との関連についての知識を普及させたり、受動喫煙防止のために分煙対策に取り組んだりしている^{9,10)}。しかし、本調査結果にみるように、成人の喫煙は、喫煙者とその周囲で受動喫煙をする人々の健康を直接的に害するのみではなく、地域や家庭で子どもに喫煙習慣を教育し、間接的に子どもの将来の健康を害する可能性がある状況を考慮すると、成人には自分が所属する地域や社会の健康を維持・形成するために禁煙するという視点も必要ではないかと考えられた。

健康行動との関連を検討した項目では、静岡県で実施した藤田の研究²⁾では朝食の欠食がある中学生では将来の自己喫煙予想率が高いという結果であったが、本調査では、女子では関連がなく、長野県B市の男子でのみ統計的には有意ではないものの同様の傾向がみられた。朝食との関連は地域差や性差もあるのかも知れない。他の中学生特有の食行動との関連をみた項目では、男子でコンビニエンスストアの食品を利用している人ほど将来の自己喫煙予想率が高い傾向がみられた。これには喫煙をめぐるコンビニの環境との関連もあると思われる。中高生のたばこの購入場所をコンビニとする割合は学年が上がるごとに増し、喫煙習慣のある高校3年生男子の半数がコンビニでたばこを購入していることが報告されている¹⁾。対面式でのたばこ販売の場合、未成年者への販売に抑止力を期待できるにもかかわらず、コンビニでのたばこ入手の割合が高いということは、コンビニが未成年者の喫煙に対して寛容な場・環境であることを示唆している。コンビニの全国的な普及を考慮すると、その存在自体を否定的にみるよりも、禁煙行動と結びつくような健康教育の場や環境にしていく工夫を企業側に求めていくことも効果的と思われた。ファーストフード、スナック菓子、インスタントラーメン・カップ麺については多くは有意ではないものの利用頻度の高い人の方が将来の自己喫煙予想率が高い傾向がみられた。スナック菓子やインスタントラーメンを週に何回も食しているという中学生の食生活行動の背景にある環境を理解することが喫煙対策にも有意義で

あると考えられた。

睡眠時間は「6時間未満」の人の方が将来の自己喫煙予想率が高いという結果が、長野県B市の女子では統計的に有意に、男子では有意ではないが同様の傾向がみられた。喫煙行動は独立した行動として捉えられるものではなく、健康によくないとされる多様な行動の一つであり、他の健康によくないとされる行動をとる人は喫煙する可能性も高いことを示唆している。成人を対象とした研究では喫煙と他の健康行動や健康意識との関連や^{11,12)}、その地域差も指摘されている¹³⁾。中学生についても、健康行動やライフスタイルとの関連を地域性を考慮して検討することが有効と考えられた。

運動・スポーツは他の健康行動のような傾向がみられず、むしろ青森県A市の男子では運動をよくしている人の方が将来の自己喫煙予想率が高い傾向がみられた。中学生が周囲の人の喫煙に影響を受ける可能性があることを考慮すると、家族の場合と同様に、体育教師やクラブ活動での指導者や上級生の喫煙行動の影響を受けている可能性がある。体育教師は喫煙率が高いという指摘¹⁴⁾もあり、教師は自分の喫煙の生徒への影響について考える必要がある。

健康行動との関連は、健康水準や地域の背景が異なる2つの地域のいずれにおいても、全体としては有意ではないが類似した傾向がみられており、中学生の喫煙対策には家庭や地域の環境を考慮することが重要であることがわかる。喫煙に至る生活環境や社会背景への理解を深め、中学生にあえて喫煙開始を促すような環境を放置しないことが必要であろう。

V む す び

平均寿命に差のある2市を比べたところ、男子では中学生の段階ですでに将来の自己喫煙予想率に開きがあり、平均寿命の短いA市の方が高率であった。家族の喫煙習慣率もA市の方が高く、嫌煙経験や母親の喫煙習慣と中学生の将来の自己喫煙予想との関連はいずれの市においても共通した傾向がみられた。中学生の喫煙対策は、本人の喫煙行動のみではなく、家庭環境や地域の社会背景をも考慮して検討することが有用である。

本調査は、青森県A市および長野県B市の関係機関のご協力により、坂井博通、新村洋未(埼玉県立大学)、佐藤秀紀、盛田寛明(青森県立保健大学)、山田恵子(沖縄国際大学)、長野県世論調査協会との共同で実施したものである。

(受付 2006.10.30)
(採用 2007. 9.10)

文 献

- 1) 尾崎米厚, 鈴木健二, 和田 清, 他. わが国の中高生の喫煙行動に関する全国調査—2000年度調査報告—. 厚生指標 2004; 51(1): 23-30.
- 2) 藤田 信. 一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と関連要因に関する大規模調査研究. 厚生指標 2005; 52(2): 14-22.
- 3) 尾崎米厚, 箕輪眞澄. わが国の中・高校生のタバコの入手経路に関する研究. 公衆衛生研究 1998; 47(4): 347-352.
- 4) 厚生労働省大臣官房統計情報部. 平成12年市区町村別生命表. 東京: 厚生統計協会, 2003.
- 5) 小川 浩, 富永祐民. 中学生の喫煙. 日本公衛誌 1985; 32(6): 305-314.
- 6) 長谷川さかえ, 長谷川まゆみ, 佐竹直子, 他. 福井県のA中学校生徒会が実施した喫煙状況調査について. 厚生指標 2001; 48(3): 29-33.
- 7) 坂井博通, 若林チヒロ, 山田恵子, 他. 3市比較調査女性の健康とライフスタイル報告書. 長野県世論調査協会, 2004.
- 8) 若林チヒロ, 國澤尚子, 新村洋未, 他. 全国市町村における「健康日本21」地方計画の策定と評価. 厚生指標 2005; 52(6): 1-6.
- 9) 新村洋未, 萱場一則, 國澤尚子, 他. 全国の市町村における喫煙対策事業の実施状況と重要性の認識. 日本公衛誌 2004; 51(9): 814-821.
- 10) Kayaba K, Wakabayashi C, Kunisawa N, et al. Implementation of a smoke-free policy on school premises and tobacco control as a priority among municipal health promotion activities: nationwide survey in Japan. Am J Public Health 2005; 95: 420-422.
- 11) 加藤育子, 富永祐民, 松岡いづみ. 喫煙者および飲酒者の生活習慣の特徴. 日本公衛誌 1987; 34(11): 692-701.
- 12) 大井田隆, 尾崎米厚, 望月友美子, 他. 一般住民における喫煙者の健康意識と喫煙行動因子. 厚生指標 2000; 47(2): 9-13.
- 13) 木口幸子, 大日向輝美. 3都市における中高年女性の飲酒と喫煙に関する研究: 第2報: 地域別にみた喫煙行動の社会文化的側面からの検討. 母性衛生 2002; 43(1): 56-63.
- 14) 大井田隆, 尾崎米厚, 丸山美知子, 他. 中高等学校の保健体育教師における喫煙率と喫煙防止教育. 厚生指標 2001; 48(5): 14-18.

Family influences on future smoking habits among junior high school students in Japan

Chihiro WAKABAYASHI*

Key words : Smoking, junior high school students, health behavior, family environment, life expectancy, health education

Objective To examine the effects of health-related behavior and family smoking habits on the future smoking habits of junior high school students in two Japanese cities with different life expectancies.

Methods A cross-sectional study was conducted in January 2005 of all second-grade students in a junior high school in city A located in Aomori prefecture (399 students) and city B located in Nagano prefecture (447 students). Life expectancies in city B were 4.2 years longer in men and 2.9 years longer in women than in city A. Data on feelings about future smoking habits, dislike of tobacco smoke, family smoking habits and health-related behavior were collected.

Results The proportion of boys who went on to become smokers was higher in city A (18.7%) than in city B (10.3%). The proportions of smoking mothers and other smoking family members were also higher in city A, while the proportion of students who disliked tobacco smoke was lower. For girls in both cities, there was a significant positive association between future smoking and maternal smoking.

Conclusion The findings suggest that maternal smoking habits are especially strongly correlated with future smoking in girls. The family smoking environment and health-related behavior should therefore be considered in measures to prevent smoking by students.

* Saitama Prefectural University, School of Health and Social Services, Department of Health Sciences